

岩泉町立小本小学校

2014年 12月 28日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

(1)「東日本大震災記録 復興への足跡」岩手県岩泉町(2012年3月) <http://infra-archive311.jp/data/doc/kiroku/iwazumi.pdf>

【場所】

海から約600m、小本川から約140mの位置にある。
住所:岩手県下閉伊郡小本町内の沢2-2
※ 別の場所で仮設校舎にて再開。



赤い範囲:岩泉町

岩泉町

緑の範囲:小本小学校

【東日本大震災による被害】

津波により校舎1階、体育館、運動場が浸水。

【震災当日の様子】

小学校は、背後に国道45号が横切り、高さ10数mの切り立った崖に阻まれ、逃げ場のない場所であった。数年前の避難訓練の際、町長が「児童が津波に向かって逃げるのはおかしい」と国土交通省三陸国道事務所に掛け合って避難経路を見直した。そして、震災の2年前である平成21年3月に、国道45号に上がる130段、長さ約30メートルの避難階段が完成した。

震災当日、児童は予想外のスピードで迫る津波から逃れるため、避難階段を必死に駆け上り、高台の広場に逃げ込んだ。避難した児童88人は全員無事であった。(1)



写真① 小本小学校の入口、北側から
(2014/4/12撮影)

【調査して言えること】

写真①では、小学校の入口を北側(海側)から撮影している。体育館が見えているが、その左側(東側)に小学校の校舎と校庭がある。道路に沿って避難しようとするれば、体育館の前まで出て、道なりに約50m手前(海側)に進んでから坂道を南側(海と反対側)に約100m進み、国道に出ることになるが、いったん海側はかなり近づかなければならぬため、津波の際の避難行動としては大きな不安を伴うものである。実際に津波は国道の交差点まで達していたようで、震災後に、写真②のように標識が設置されている。

写真③④では、小学校の東側から体育館、校舎、校庭を撮影している。写真④の校庭の奥に、国道へと上がる通路が設置されている。写真⑤はその通路を大きく撮影したもので、幅の広い階段になっていて、避難の際には有効に機能したと思われる。



写真② 国道の交差点に設置された
津波到達点を示す標識
(2014/4/12撮影)



写真⑤ 国道に上がる通路
(2014/4/12撮影)



写真④ 校舎と校庭、東側から
(2014/4/12撮影)



写真③ 体育館と校舎、東側から
(2014/4/12撮影)